飯田、小西選手が優勝

柔道講道館杯 全日本体重別

昨年4月から延期した全日本選抜柔道体重別選手権大会を兼ねた講道館杯全日本柔道体重別選手権大会が昨年10月31日と11月1日に千葉ポートアリーナで開催され、男子100㌔級で飯田健太郎選手（体育4年）が、男子60㌔級で小西誠志郎選手（体育4年）がそれぞれ優勝を果たした。

飯田選手は昨年2月のグランドスラム・パリ大会以来約8カ月ぶりの実戦となったが、実力通りに勝ち進むと、決勝戦では見事なつば返しで一本勝ち。3年ぶり2度目の頂点に立った。飯田選手は報道陣の取材に対し「久しぶりの大会で緊張したが、優勝できてほっとした」と語った。

小西選手は、初戦から準決勝まですべて一本勝ちで順調に決勝戦へと駒を進めた。決勝戦では相手選手を押さえ込んで勝利が決まったかと思われたが、その時点での判定は小西選手の負け。表彰台では2位に上った。しかし後日、決勝戦で誤審があったとして小西選手の同時優勝が正式に発表され、講道館杯初優勝となった。

前回大会の81㌔級で初優勝した友清光選手（体育4年）は惜しくも準決勝で敗れたが、3位決定戦を制し3位となった。

久しぶりの実戦で果敢に攻める飯田選手（右）＝アフロ提供

決勝戦で相手選手を押さえ込む小西選手＝アフロ提供

男子団体12年ぶり頂点

女子個人は喜田選手が3連覇

全日本選手権

昨年11月20日から22日にかけて、群馬・高崎アリーナにて第73回全日本新体操選手権大会が開催され、本学男子団体が12年ぶりに優勝を果たした。

約1カ月前に行われた全日本インカレでは強豪・青森大学に19連覇を許し、準優勝となった本学男子団体の試技順は8番目。ここで実力を存分に発揮し、すでに演技を終えていた青森大学を突き放す18・225という高得点を出して2008年以来の全日本選手権団体優勝に輝いた。

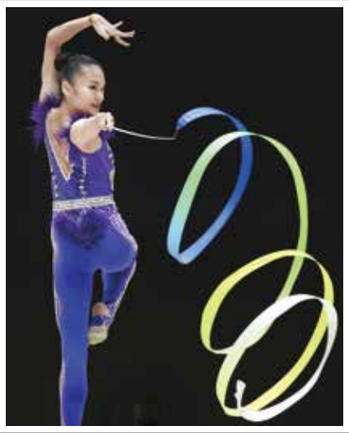
12年ぶりの団体優勝に笑顔を見せる選手ら

大会後、男子団体キャプテンの村上恵右選手（体育4年）は「思うように練習できない中、チーム全員が挑戦者という攻めの姿勢で取り組んできた結果が実った」と喜びを噛み締めた。山田小太郎監督は「この困難な時期に最高の結果を得られたことを誇りに思う」と語り、選手らをたたえた。

女子では個人総合で喜田純鈴選手（21ア2年）が、4種目すべてで1位となる完全優勝で大会3連覇を成し遂げた。すでにインカレで優勝し、久しぶりの実戦で結果を残して臨んだ喜田選手は今大会でも終始冷静な演技を見せ、4種目合計84・450という高得点をマークして優勝した。

そのほか、立澤孝菜選手（21ア4年）が個人種目別のクラブで同点1位になるなど喜田選手を猛追し、総合では3位以下を大きく引き離して準優勝を果たした。

立澤選手


華麗な演技をみせる喜田選手＝読売新聞社提供

新体操 男女とも快挙

喜田選手 圧倒的演技で完全優勝

女子では個人総合で喜田純鈴選手（21ア2年）が、4種目すべてで1位となる完全優勝で大会3連覇を成し遂げた。すでにインカレで優勝し、久しぶりの実戦で結果を残して臨んだ喜田選手は今大会でも終始冷静な演技を見せ、4種目合計84・450という高得点をマークして優勝した。

そのほか、立澤孝菜選手（21ア4年）が個人種目別のクラブで同点1位になるなど喜田選手を猛追し、総合では3位以下を大きく引き離して準優勝を果たした。

これにより、全日本インカレで女子個人総合優勝を果たしたのは、立澤孝菜選手（21ア4年）が優勝した2017年大会から4年連続で本学選手となった。

また、本学は女子団体総合でも3位入賞を果たした。

全日本学生

本学選手 4年連続女王

第72回全日本学生新体操選手権大会が昨年10月24日から27日まで広島県福山市のエフピコアリーナふくやまで開催され、女子は喜田純鈴選手（21ア2年）が個人総合と全種目別を制し完全優勝を達成した。

特別強化選手でもある喜田選手は、コロナ下で実戦の舞台を求め、今回初めて同大会に出場した。喜田選手はフープ・ボール・リボンの3種目で20点台を叩き出し、2位以下に圧倒的な差をつけた。クラブでも他の追随を許さず、4種目全てで優勝を果たした。

目指せ！国士舘から世界へ

新体操　喜田 純鈴さん

（21世紀アジア学部2年）

4種目を制する完全優勝で昨年11月、全日本選手権3連覇を果たし、東京五輪への期待も高まる新体操日本代表「フェアリージャパン」個人選手の喜田純鈴選手（21ア2年）。わずか12歳で全日本・種目別で優勝し、一躍全国区となった喜田選手ですが、ここまでの道のりは必ずしも順風満帆ではなかったようです。国内大会で圧倒的な実力を見せ続ける喜田選手の最新インタビューをお届けします。

リラックスできるのは大事なひとときに

―全日本選手権3連覇の率直な感想を。

優勝して安心したというのが率直な気持ちです。今回の全日本で優勝してから東京五輪の代表争いに臨みたかったので、勝てて本当によかったです。

―コロナ禍の影響は？

緊急事態宣言になってからの数カ月間は、私のうにになりました。次の大会が決まっていない中での練習は初めてでしたが、プレッシャーを感じることなく課題に向き合うことができ、自信もつけたと思います。東京五輪が1年延期になったことも、私にとってはプラスです。

―全日本インカレに初出場して優勝しました。

インカレに出ようと思ったのは、2020年2月の国際大会を最後に実戦の場がなくなったので、試合の感覚を取り戻したかったからです。自粛中に演技面で新しい挑戦もしたので、その成果を実践したい気持ちもありました。大会では、楽しんで伸び伸びと演技ができたと思います。

―ロシアに留学していたのは高校時代？

高校2年生の最初から卒業までの2年間です。けがなどもありましたが、ロシアの環境は私にはあまり合わなかったらしく、日本にいる時より成績が下がってしまいました。地元・香川で、私が新体操を始めた4歳の時から指導を受けているコーチとも話し合い、帰国することを決めました。国士舘大学に入学する前のタイミングで日本に戻ったので、大学の入学式にも出ることができ、とても新鮮でした。

―国士舘アスリートにメッセージを。

競技の違いや目指す場所の違いはあっても、それぞれの立場で試練を乗り越えているはず。自分と闘い、壁と向き合っているという意味では皆変わらないと思います。私の演技を見て、少しでも励みになっていただけたらとてもうれしいです。

―東京五輪への意気込みを聞かせてください。

この一年、それぞれの大会への思い入れはありましたが、やはりその先には東京五輪という目標がありました。大きく自信もついたので、この勢いで五輪出場の夢を叶えたいです。

（令和2年11月取材）

自粛中も挑戦 夢へ前進

諏訪間選手 準優勝

世界ジュニア王者に惜敗

全日本大学レスリング選手権

内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権は11時間14分7秒。新型コロナウイルス感染拡大防止策として、各大学による沿道での応援が禁止となるなど例年と異なる形での開催となったが、今大会もエースのライモイ・ヴィンセント選手（21ア3年）が見事な走りを見せた。3年連続2区を任されたヴィンセント選手は18位でタスキを受け、区間2位の力走で6人を抜き12位に順位を押し上げた。3区以降では順位を落とすもシード権獲得の10位に2分47秒差と迫る17位で往路を終えた＝写真。

復路で巻き返しを図りたい本学は、昨年に続いて曽根雅文選手（政経4年）が6区を快走。区間9位の走りを見せたが勢いはつながらず、目標としていた31年ぶりのシード権獲得には届かなかった。

大会後、添田正美駅伝監督は「コロナ禍の中、サポートに回った選手も含めて皆が頑張ってくれた。シード権を獲得するチーム作りをしていく」と述べた。新主将の木榑（こぐれ）杏祐選手（体育3年）は「結果にこだわり、強いチームにしていく」と悲願のシード権獲得に向けて、雪辱を誓った。

5区を力走し往路ゴールする孝田拓海選手（21ア4年）

結果にこだわり強いチームに

シード権獲得へ雪辱誓う

箱根駅伝

第97回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）が1月2・3日に開催され、5年連続49回目の出場の本学は、2年連続でタスキをつなぐも総合18位となった。総合記録が6区を快走。区間9位の走りを見せたが勢いはつながらず、目標としていた31年ぶりのシード権獲得には届かなかった。

大会後、添田正美駅伝監督は「コロナ禍の中、サポートに回った選手も含めて皆が頑張ってくれた。シード権を獲得するチーム作りをしていく」と述べた。新主将の木榑（こぐれ）杏祐選手（体育3年）は「結果にこだわり、強いチームにしていく」と悲願のシード権獲得に向けて、雪辱を誓った。

ヘーシンク氏のポスター受贈

東京2020を応援

国士舘スポーツの殿堂に設置されたポスターとともに。左が佐藤学長、右が永冨教授

1964年東京五輪のオランダ代表・柔道無差別級金メダリストで本学名誉博士の故アントン・ヘーシンク氏の遺族および同氏と親交の深い今野充昭氏より、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）への応援ポスターが本学に贈られ、昨年12月16日に世田谷キャンパスのメイプルセンチュリーホールで、オランダオリンピック委員会の情報担当官として、東京2020大会に向けた同国チームの日本での合宿地の事前調整などにあたった。退任後も大会の開催と成功のために奔走し、来日の折には菅義偉首相に直接ポスターを手渡した。

佐藤圭一学長は「ヘーシンク氏の日本と五輪への熱い心に触れることができた。幾多の困難を克服した生態学的見地から研究し、その普及・発展に尽力したとして、ヘーシンク氏に対し国士舘大学名誉博士の学位を贈呈した。

今野氏はオランダ在住で、オランダオリンピックアカデミーの「国士舘スポーツの殿堂」に設置された。

ヘーシンク氏とゆかりのある本学に大会の成功祈願を託したいというご遺族の意向をくみ取った今野氏は、遺族から提供された写真を使い大判1枚と小判2枚の布製ポスターを製作。本学への寄贈にあたっては、今野氏の知人を介して本学政経学部・永冨隆司教授のもとへ同氏の偉功をたたえた。永冨教授は「学位贈呈から20年を経て、本学との縁を再び結ぶお役に立てたことはうれしい限り」と話した。

アントン・ヘーシンク氏は、柔道が正式競技として初めて採用された先の東京五輪で、外国人としては初の金メダルを獲得。優勝の瞬間に畳に駆け上がろうとする自国の指導者を手で制した同氏の行動は、武道精神を体現したものとして語り継がれている。平成12年に本学は、柔道を教育学や

3選手 プロの世界へ

松岡選手

田代選手

■Jリーガー2選手誕生

2021年シーズンから、本学サッカー部に所属するFW・松岡大智選手（体育4年）がJ3チームのカターレ富山に、GK・田代琉我選手（21ア4年）が同じくJ3チームのロアッソ熊本にそれぞれ加入することが内定した。

松岡選手は、切れ味鋭いドリブルと左足のシュートが魅力でチームの絶対的エースとして活躍してきた。

田代選手は、GKとして気迫あふれるプレーを前面に出し、主将としても今シーズンチームをけん引した。両選手とも、プロ入り後の活躍が大いに期待されている。

■卒業生がBリーグ加入

本学卒業生の池田祐一選手（令和2年21世紀アジア学部卒、写真）が、今シーズン途中に男子プロバスケットボールB2の青森ワッツへ加入した。PG（ポイントガード）の池田選手は契約直後から試合に出場し、得点をあげるなどチームに貢献している。

東京アクアティクスセンター完成披露式

清水選手が出演

東京2020大会の水泳会場として使用される東京アクアティクスセンターの完成披露式典が昨年10月24日に行われ、本学水泳部に所属するパラ水泳の清水滉太選手（理工2年）が出演した。

この日の式典では完成した施設の披露とともに、東京2020大会時に同会場で行われる水泳競技のデモンストレーションが実施され、清水選手は200㍍メドレーリレーの第2泳者として平泳ぎで力泳を見せた。

同施設は昨年2月末に完成したが、コロナ禍で式典は延期されていた。当日は競泳女子の池江璃花子選手らも参加して新施設の完成を祝った。

日本武道協議会優良団体表彰

空手道部が受賞

本学空手道部は昨年10月、日本武道協議会から令和元年度武道優良団体表彰を受けた。同表彰は武道の普及振興に寄与し、特に顕著な成果を挙げた団体に対し贈られる。

空手道部は令和元年度、女子組手で全日本大学選手権優勝、男子組手で東日本大学選手権優勝を飾るなど、男女ともに好成績を収めたことが評価された。

亀山歩監督は「多くの方の支えがあり今回の受賞につながった。今後は全日本大学選手権の優勝はもちろん、世界で戦える選手育成と指導者育成を目標に、学生とともに精進していきたい」と一層の飛躍を誓った。

本学ではこれまで、平成15年度に柔道部男子が同表彰を受けている。

多摩市と連携 ラジオ体操教室

3年で41回開催

昨年11月27日に多摩市と本学が主催する「楽しく！美しい！ラジオ体操教室」が多摩市立愛宕かえで館で実施され、本年度全7回の開催が終了した。

この教室は、多摩市と本学の連携協定に関わる東京オリンピック・パラリンピック推進事業の一環として、地域住民を対象に2018年5月に開始。多摩市内のコミュニティセンターを巡回し、本学新体操部男子の指導者が、ラジオ体操の正確な動作を指導してきた。3年間で合わせて41回開催し、延べ891人が参加した。また、本年度は動画投稿サイト「ユーチューブ」でライブ配信も行い、計307人が画面を通じて体を動かした。

卒業生の皆様へ

いつも国士舘大学新聞をご愛読いただき、ありがとうございます。

住所変更や発送停止をご希望の場合は、国士舘大学同窓会ホームページからお手続きが可能です。

同窓会事務局 ☎ 03-3413-7303

大学ホームページ（スポ魂）でも公開しています。

活躍するスポーツ

《大学》

【レスリング】

●東日本学生秋季選手権大会（11／26）

男子フリースタイル

57㌔級　優勝　阿部敏弥（体4年）

125㌔級　優勝　安田拓斗（体3年）

男子グレコローマン

55㌔級　優勝　榊原凌我（体4年）

●東日本学生秋季新人戦（11／24）

男子グレコローマン

87㌔級　優勝　吉村海里（体2年）

【体操】

●第74回全日本学生選手権大会（10／19～23）

団体　3位　国士舘大学

個人種目別

跳馬　2位　佐々木愛華（体1年）

《中学・高校》

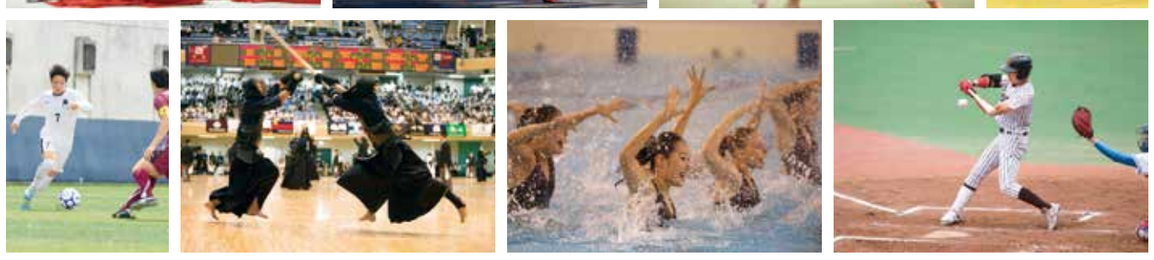
【スポーツクライミング】

●Top of the Top 2020（10／31～11／1）リード

2位　平野夏海（高校3年、写真）

ボルダリング

5位　平野夏海



スポ魂 SPOKON　国士舘のスポーツ情報オフィシャルサイト　KOKUSHIKAN SPORTS　国士舘　スポ魂　検索